

ブラジル日本商工会議所  
第3回フォーラム

# 「2022年下期回顧と今後の展望」



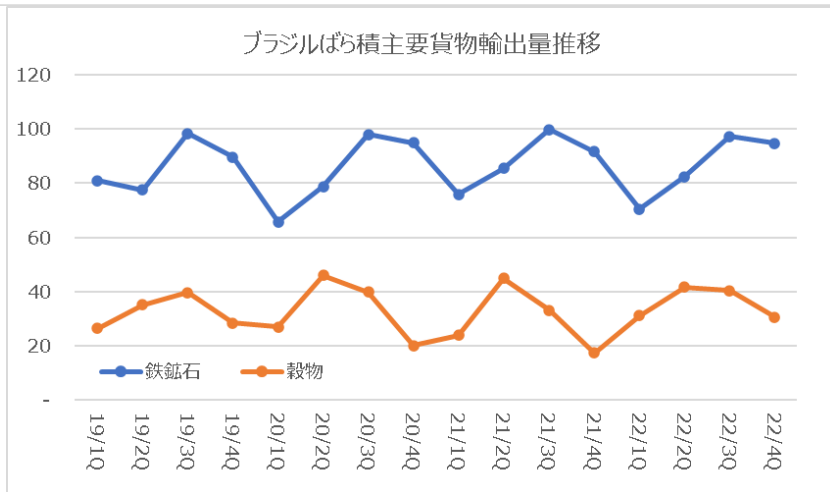
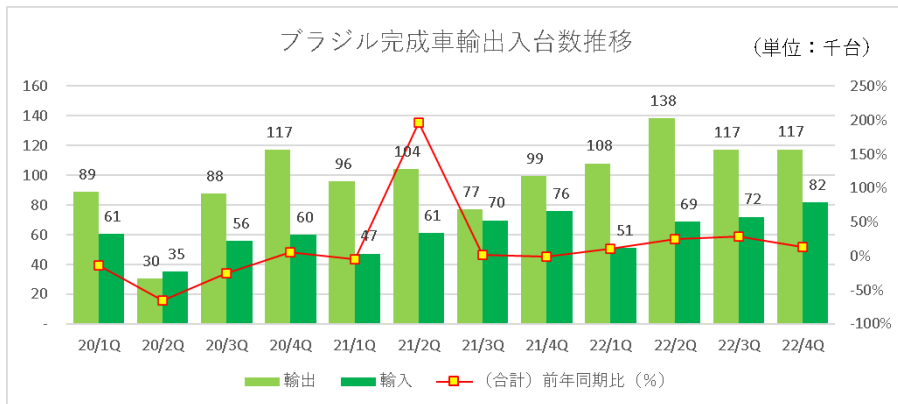
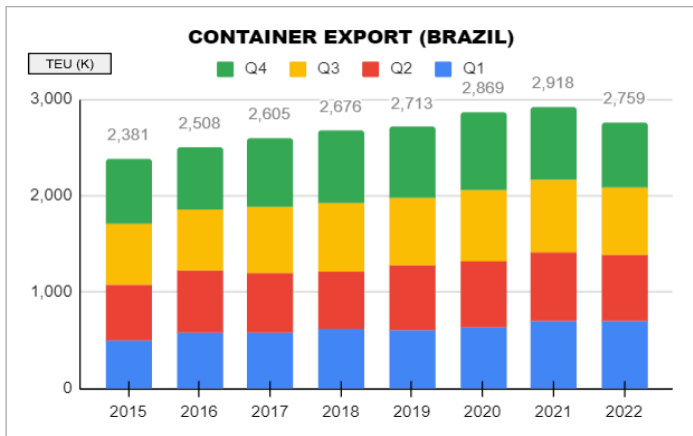
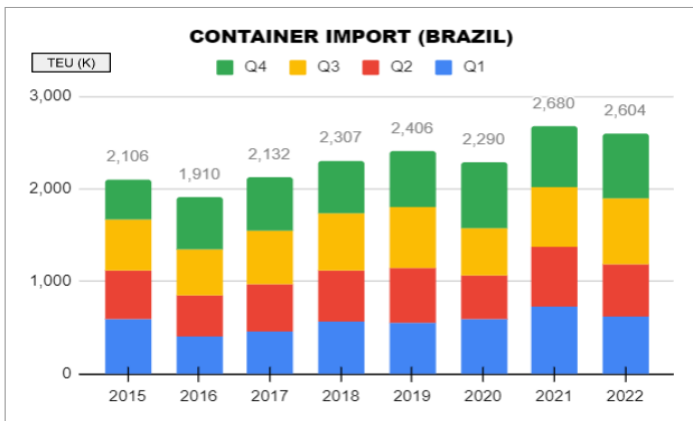
運輸サービス部会  
2023年3月28日



# 海運

## 2022年下期回顧

- ◆ ブラジルの下期コンテナ数量は、過去7年で最大であった前年同期比で輸入が9.6%増、輸出が▲8.6%減。世界中で起きていたコロナ特需における荷動きも落ち着き、主要港の混雑も緩和した。スケジュール遅延も改善された事から、本船の回転率も上がり、実質上の供給スペースが増えた為、スペースのタイト感も輸出入共に緩和されている。輸出は木材の米国向け落ち込みが顕著、一方食肉の輸出は昨年比でも増加し続けている。
- ◆ 2022年のブラジル自動車輸入は前年との比較では8%の増加、輸出は28%の増。世界的に自動車・建機などの輸送需要は強く、自動車専用船の船腹はタイトな状況が継続。
- ◆ ドライバルク貨物の輸出の主要品目である鉄鉱石は中国经济低迷の影響もあり前年同期比微減（▲2%）。一方で穀物はコーンの出荷が伸びたことから、前年比20%の大幅増となった。





## 海運

### 今後の展望

- ◆ コンテナ輸送については、コロナ禍における物流混乱の最悪期は脱した。港湾混雑・本船遅延もコロナ前までは戻っていないが、改善へ向かう見通し。輸出入共に堅調な見通しではあるものの、混乱期におけるタイト感までは戻らない見込み。
- ◆ 自動車専用船分野では、欧米の景気動向次第ではあるが今のところ完成車輸送の需要に落ち込みは見られず、船腹の不足傾向は継続するとの見方が主流。
- ◆ ドライバルク輸送は、引き続き最大需要国である中国の動向次第ではあるが、ゼロコロナ政策からの転換による期待感あり。穀物はブラジルは異常気象の影響も少なく、前年同様に好調な出荷が期待される。

### 海運業界脱炭素への取り組みの世界的な動向（参考情報）

国際海事機関（IMO）にて採決された2050年までに船舶からのGHG排出量50%削減目標に向けて、海運会社の新造船発注の動きに変化あり。

<業界紙情報>

22年の新造船市場では、CGT(標準貨物船換算トン)ベースで全受注量の61%を代替燃料船が占めた。LNG燃料船が397隻・3670万総トンと過半を占め、次いでアンモニア燃料船に改造可能なアンモニアレディー仕様が90隻・770総トンで11%、メタノール燃料船が43隻・500万総トンで5%をそれぞれ占めた。



## 航空貨物

# 2022年度全体回顧及び2023年度傾向

### 【世界のトレンド】

1. 航空貨物2022年は2021年度と比較し減少傾向 – 2023年度も継続
2. 海上輸送が安定化してきたため、航空貨物への流れが減少

### 【ブラジルのトレンド】

1. ブラジル発の貨物量(輸出)は対2021年で5.6%減少
2. ブラジル着の貨物量(輸入)は対2021年で0.7%減少
3. 貨物輸送能力が徐々に回復(旅客便の戻り)

### 【燃料費動向】

1. 上昇下降の繰り返し

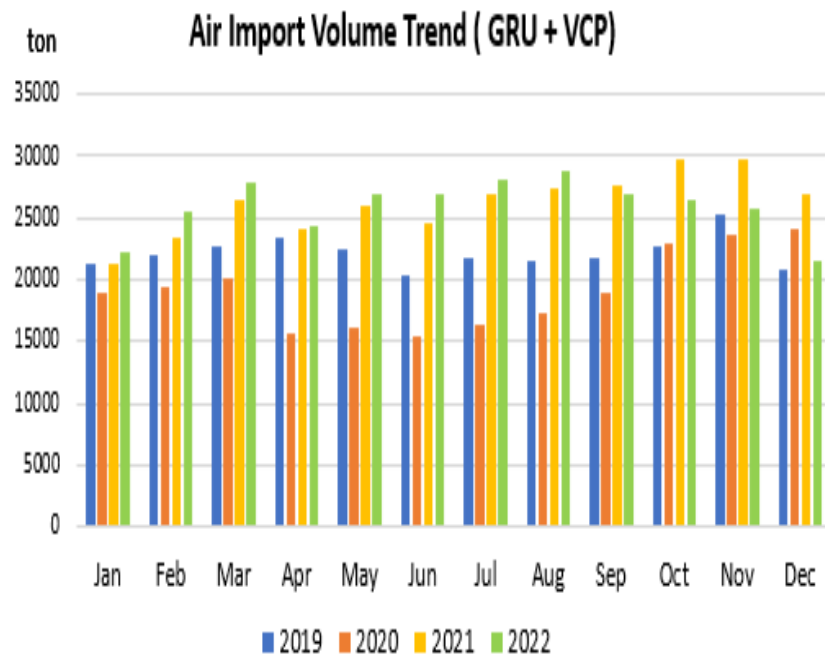
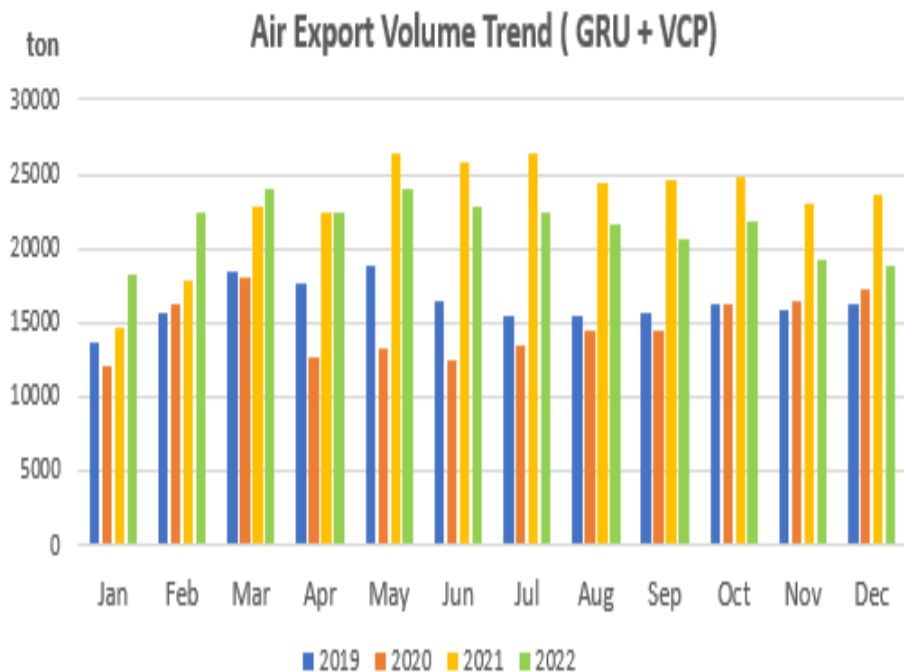
## 今後の懸念事項

- \* 世界の一部金融機関における苦境
- \* 消費者物価の上昇は消費者購買意欲にインパクトを与え  
結果的に航空貨物の需要に影響を与える可能性がある  
アルゼンチンが100%越えの消費者物価指数上昇(31年ぶり)
- \* ロシア・ウクライナ情勢の長期化
- \* CCT IMPORTAÇÃOという航空輸入のシステムが7月より稼働予定  
リスク(遅延時の罰金)と利便性(特にスピード)が表裏一体



# <GRU & VCP空港 航空貨物輸出入取扱数量 単位トン>

## 航空貨物



2022 VS 2021 ▲5.6%

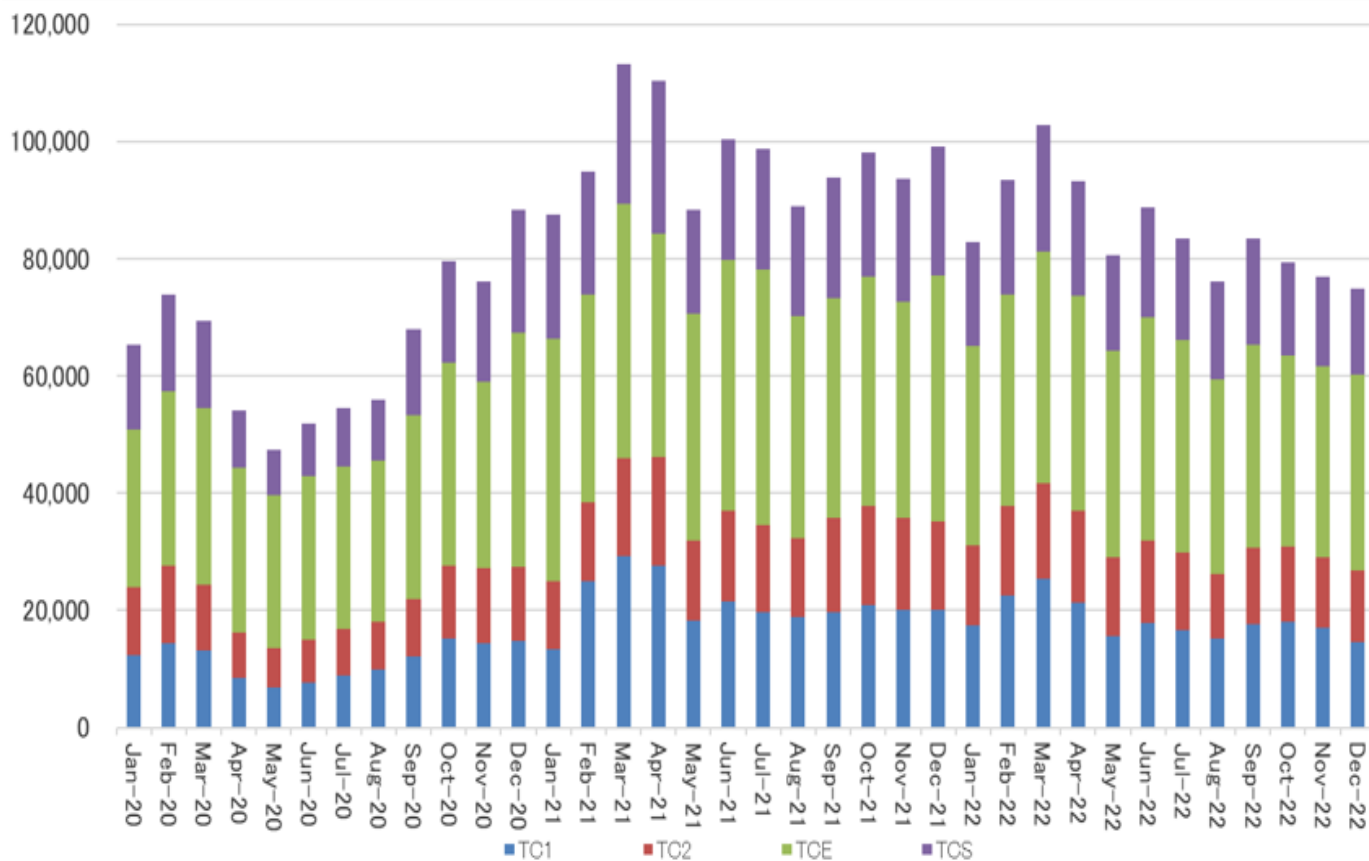
2022 VS 2021 ▲0.7%

(数値出典元 : GRU AIRPORT CARGO, VCP AEROPORT ,INFRAEO CARGO)



## 航空貨物

# <日本発 航空貨物輸出入取扱数量 単位トン>



ブラジル発と同様に2022年以降右肩下がり

(数値出典元：GRU AIRPORT CARGO,VCP AEROPORT ,INFRAEO CARGO)

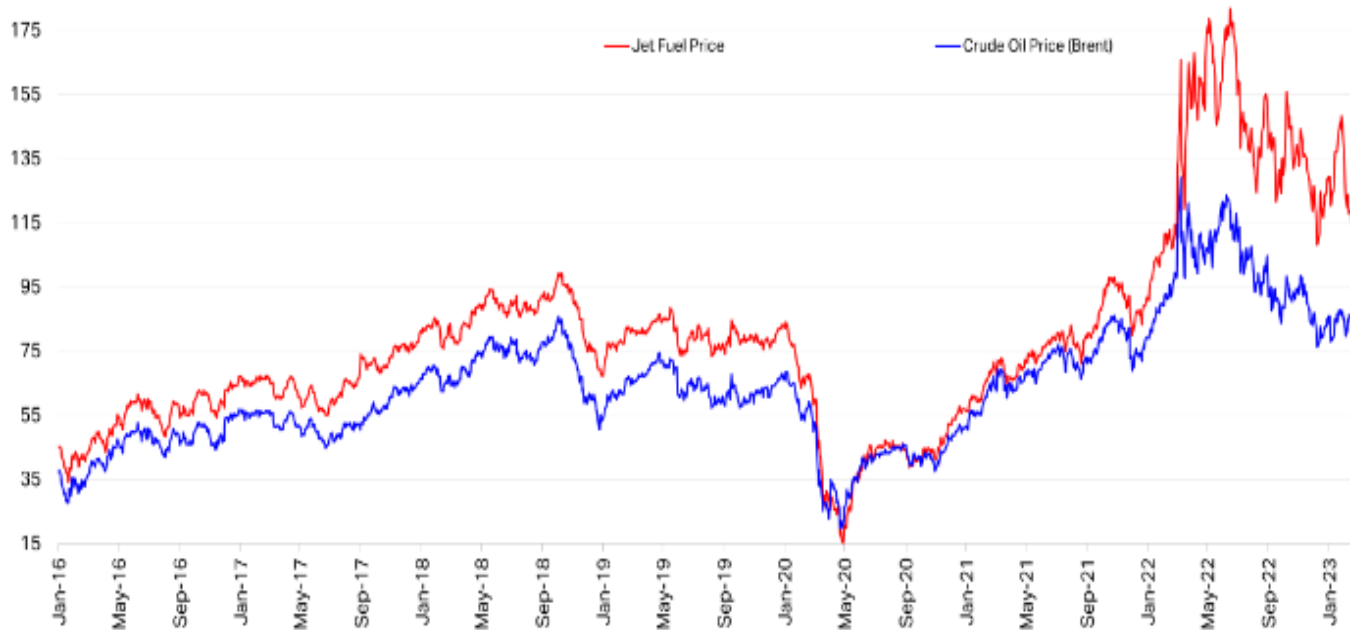


## <ジェット燃料/原油価格推移>

### 航空貨物

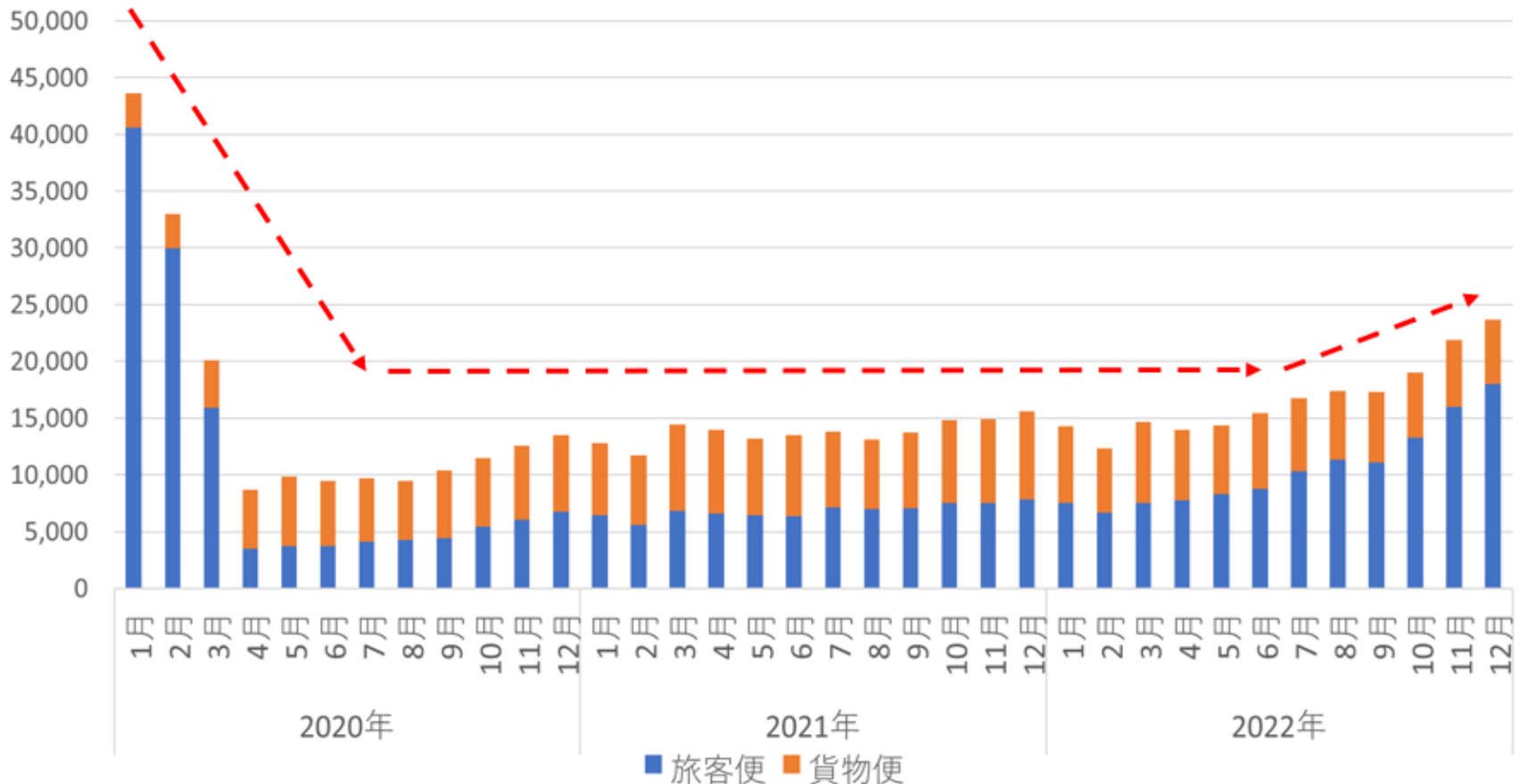
#### Jet fuel price developments - longer term perspective

Jet Fuel & Crude Oil Price (\$/barrel)



Source: S&P Global, Refinitiv Eikon

# 日本発フライト離発着回数の推移（航空貨物）



コロナ前と比較すると大幅な減便の状況が続くが、出入国規制の緩和等で旅客便数は着実に増加している。一方で、貨物便は減少傾向にある





## 今後の展望

### その他 物流関係

- > AMERICANASは会社更生の手続き申請中。  
自社倉庫だけで約200,000m<sup>2</sup>の倉庫を保有  
(下請け倉庫スペースは不明)  
状況次第で大きな空坪になる可能性
- > 関税率の見直し? 不透明感あり
- > 3月よりガソリン等が値上がり (減税部分が一部戻された)



旅行・ホテル  
航空旅客 レンタカー

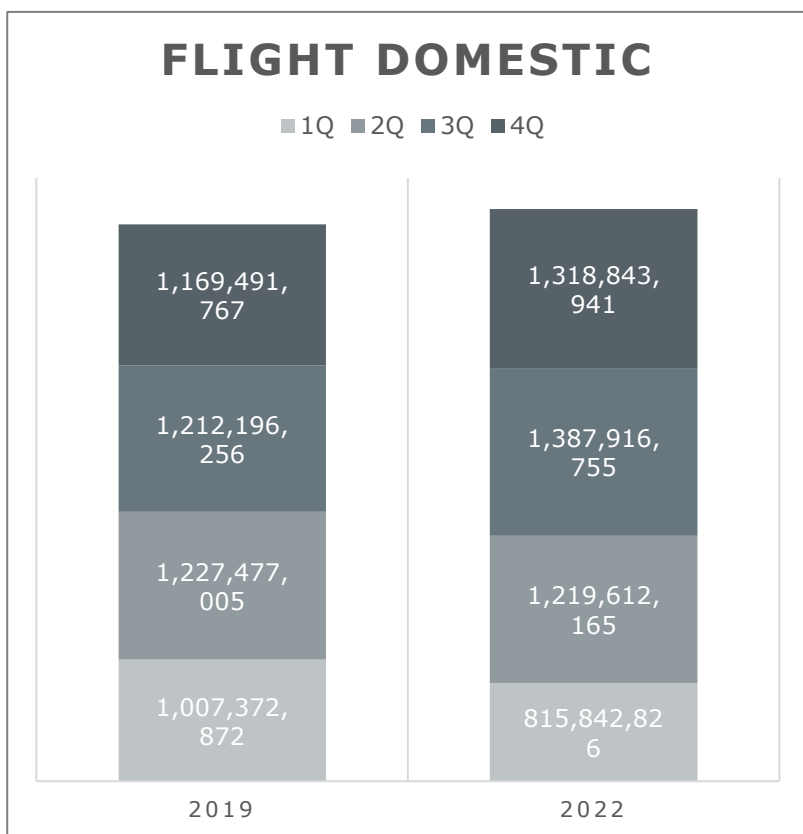
2022年度下期回顧

ブラジル国内旅行市場（売上）

2022年間では2019年間(コロナ前)レベルに戻った

Total Sales in whole Year

Currency: BRL





# 旅行・ホテル 航空旅客 レンタカー

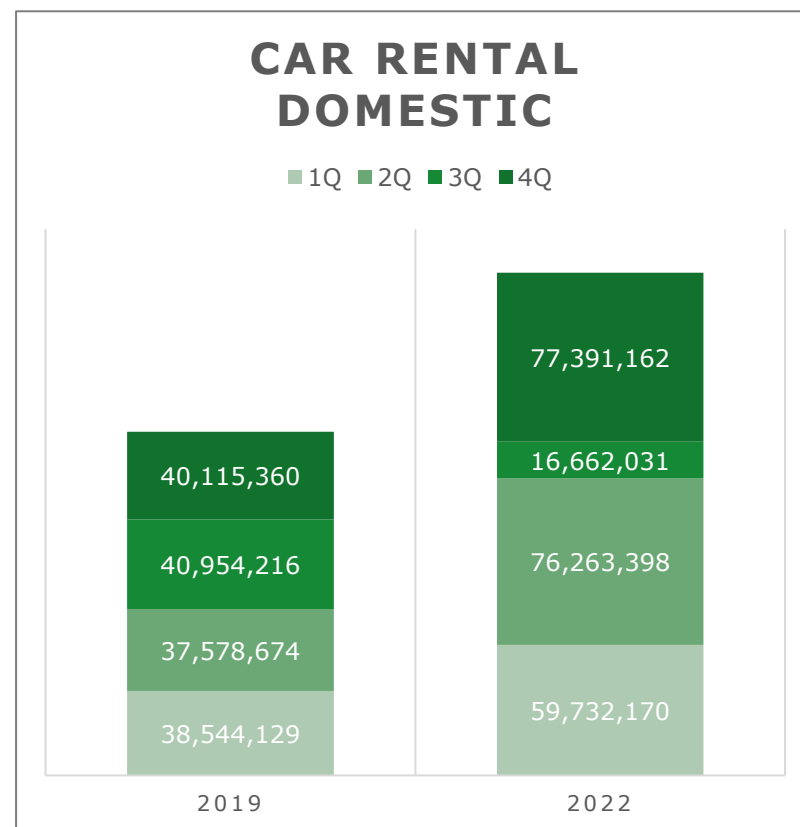
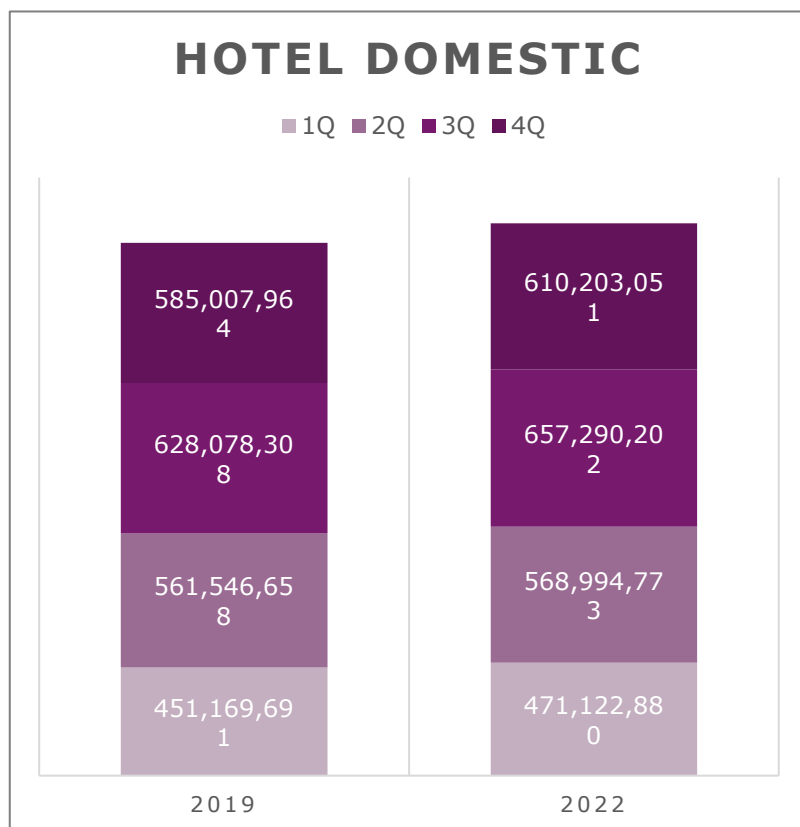
## 2022年度下期回顧

### ブラジル国内旅行市場（売上）

### 2022年間では2019年間(コロナ前)レベルに戻った

Total Sales in whole Year

Currency: BRL





# 旅行・ホテル 航空旅客 レンタカー

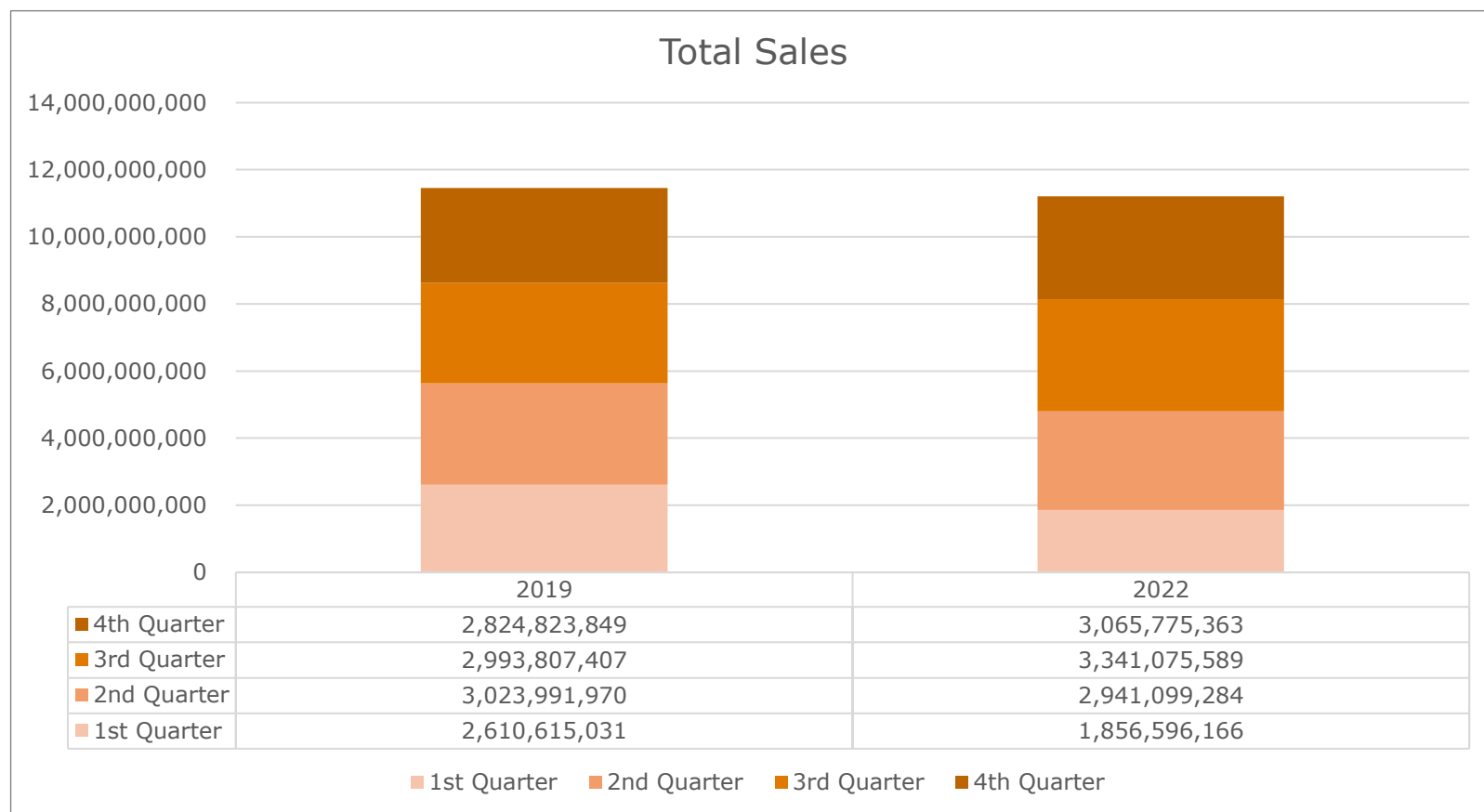
## 2022年度下期回顧

### ブラジル国内旅行市場（売上）

### 2022年間では2019年間(コロナ前)レベルに戻った

Total Sales in whole Year

Currency: BRL





旅行 ホテル  
航空旅客 レンタカー

今後の展望・課題 (世界)

## 世界の航空旅客数

by 国際航空運送協会 (IATA) の発表

展望

100%

2019年  
(コロナ前)



68.5%

2022年



85.5%

2023年



## 日本の国内旅行市場（売上）

### 国内旅客

Q4で 2019年（コロナ前）の **85%**

ビジネス需要は想定と比べ戻りが遅く、レジャー需要は全国旅行支援の効果が限定的

### 国際旅客

Q4で 2019年（コロナ前）の **54%**

日本発の業務需要は想定より弱いが緩やかに回復中、インバウンドや通過需要は好調に推移、一方で観光アウトバウンドは回復が遅れている



## 旅行 ホテル 航空旅客 レンタカー

### 今後の展望・課題（日本）

#### 展望

- ・ 日本への入国制限が緩和されたため、溜まっていた日本インバウンド観光需要が盛り上がりを見せている。

#### 課題

新型コロナウイルス

2023年5月8日から  
「5類感染症」へ

- ☑ 円安による日本人渡航自粛、世界的インフレによる観光地物価高
- ☑ 開国が遅れた影響で、退職などが相次ぎ、人手不足の影響が深刻化
- ☑ 戦争などの関係で燃油費高騰、サプライチェーンの影響で航空機座席の部品が欠品となるなどの現象が発生。
- ☑ **日本国籍のブラジル入国観光ビザ取得義務**